

## 研究報告



# 理学療法士ボランティアが国際協力分野で求められる役割 — JICA ボランティア要請内容の質的分析から — \*

濱田光佑<sup>1)</sup>・清水一輝<sup>1)</sup>・寺村 晃<sup>2)</sup>

## 【要旨】

【目的】 JICA 海外協力隊の理学療法士に対する要請案件から、近年の開発途上国におけるリハビリテーションニーズ、理学療法ボランティアに求められる役割を明らかにすることを目的とした。【方法】 2021～2023年までの JICA 海外協力隊の理学療法士募集における一般案件 81 件を対象とした。要請国・機関概要、要請概要、資格等条件を調査した上で、要請概要に対して KH Coder による Text mining を行った。【結果】 媒介中心性が高い語句として「資格」、「経験」、「少ない」が抽出された。サブグラフ検出では業務の改善と提案、理学療法の提供を中心とした 13 グループが生成された。さらに、実務経験が 3 年、5 年以上の案件は施設活動との関連性が高く、2 年以上の案件は地域活動との関連性が高かった。【結論】 要請国からは依然として「施設における障害者への運動療法」が求められている。同時に日本人として俯瞰的な視点を持ち要請国の課題を洞察し改善する必要がある。

キーワード：JICA 海外協力隊、理学療法士の役割、Text mining

## はじめに

日本の理学療法士は国際協力分野においてどのような役割を担うことができるのだろうか。理学療法士の有資格者は令和 5 年度時点で 21 万人を超え、日本は世界で最も理学療法士が多い国となっている<sup>1)</sup>。有資格者の増加や世界のグローバル化に伴い、海外で活動している理学療法士、もしくは海外での活動を志す理学療法士は増加傾向にあり、その活躍を耳にすることも少なくない。しかしながら、実際には日本理学療法士協会が把握している会員分布における海外在住の理学療法士数

は 119 名 (2023 年 3 月時点) となっており、国外での理学療法士としての活動は限定的であることが示されている<sup>1)</sup>。その背景には、個人の意思や環境を除いても、日本の理学療法士を取り巻く制度的制約や語学能力等の障壁が見え隠れしている。

海外に目を移すと世界人口の 15% は障害者とされ<sup>2)</sup>、未だに障害者を取り巻く課題は累積している。特に開発途上国においては、障害者数が多いだけでなく貧困問題も相まって社会的、制度的、文化的、情動的な障壁が障害者の健康状態を阻害しており、今もなおリハビリテーション先進国からの支援が求められている。もちろん、日本にも支援国としての役割が期待されており、独立行政法人国際協力機構 (以下、JICA) が派遣する JICA 海外協力隊は国際協力分野におけるその代表である。JICA 海外協力隊は ODA のボランティア事業という位置づけで、開発途上国からの要請に基づき各国へ派遣される。任国での活動期間は長期派遣の場合は 2 年間となっており、その中で要請施設と隊員が協同して目標を定め活動を実践する。JICA 海外協力隊の理学療法士派遣の歴史は長く、2020 年の COVID-19 の世界的大流行による全

\* Role of volunteer physical therapists in the field of international cooperation -A Qualitative Analysis of JICA Volunteer Requests

- 1) 愛知医療学院短期大学  
(〒452-0931 愛知県清須市一場 519 番地)  
Kosuke Hamada, PT, PhD, Kazuki Shimizu, OT, MS:  
AICHI Medical College for Physical and Occupational Therapy
- 2) 大阪保健医療大学  
Akira Teramura, OT, PhD: Osaka Health Science University

# E-mail: hamada@yuai.ac.jp

(受付日 2024年6月19日/受理日 2024年8月21日)

隊員一時撤退後も要請国からのニーズに応じて各国で活動をしている。理学療法士隊員の累計派遣者数は624名（2023年3月時点）となっており、これは医療・保健関連の専門職としては看護師、助産師に次ぐ多さで各国のリハビリテーションニーズの高さを反映している<sup>3)</sup>。国際協力分野に興味を持つ理学療法士にとって、専門職として参加できるJICA海外協力隊は国際的な活動を行う上での能力基盤を醸成する登竜門としても作用している。その意味でJICA事業は海外での活動を志す理学療法士、支援を求める要請国の双方にとって利害関係が一致する貴重な事業であり、質の高い国際協力を実践できる可能性を秘めている。

実際に派遣された任国からの評価は高く、各任国の受入れ施設はJICA海外協力隊の協力効果を70%以上、事業への満足度を約100%と回答している<sup>4)</sup>。一方で、JICA海外協力隊経験者の理学療法士に対する調査では、「任国と日本の相互理解を深めた」という自己評価が8割でありながら、「リハビリテーションの発展に寄与した」との自己評価は4割と低く評価されている<sup>5)</sup>。つまり、JICA海外協力隊に参加する理学療法士は、自身の想定していた活動や成果と要請内容の間に何らかの齟齬を感じていることを示唆している。もちろん、その要因は多岐にわたり、個人の能力やボランティアを取り巻く人的、物理的、経済的、文化的制約、要請内容と現地の要望の乖離など多くのことが推察される。2023年には理学療法士の世界人口は196万人を超え<sup>6)</sup>、開発途上国の多くの国でもリハビリテーション専門職の養成が始まっている。また、近年ではJICA海外協力隊の作業療法士、言語聴覚士といった理学療法士以外の派遣要請も増加しており<sup>7)</sup>、開発途上国のリハビリテーションを取り巻く状況も急速に変化していることも事実である。これらのことから質の高い国際協力を実践していくには、大局的な視点を持ち理学療法士ボランティアの立ち位置や開発途上国におけるリハビリテーションニーズを理解しておく必要がある。さらに、開発途上国の社会的状況を把握することは、今後の日本の理学療法士の国際協力の方向性を理解することにも繋がると考えられる。

そこで本研究では、近年のJICA海外協力隊の理学療法士に対する要請概要（要請理由・背景、予定される活動内容）をもとに、要請国のニーズと日本の理学療法士ボランティアに求められている役割を質的分析によって明らかにする。これにより、近年の開発途上国におけるリハビリテーシ

ョン状況を理解し、今後の国際協力分野での活動を志す理学療法士への一助とする。

## 対象および方法

### 1. 分析対象

2021～2023年度までのJICA海外協力隊の理学療法士募集における一般案件104件（春・秋募集）を抽出した。そのうち要請内容が重複した23件を除いた81件を対象とした。分析対象とするデータは、要請国・機関概要、要請概要（要請理由・背景、予定される活動内容について）、資格等条件（経験年数、語学レベル）とした。データ利用に関しては、JICAからの許諾を得た上で、JICA海外協力隊ホームページに公開されているものを使用した。なお、本研究は大阪大学人間科学研究科・共生学系研究倫理委員会の承認を得て実施された（登録番号：OUKS2363）。

### 2. 分析方法

研究対象である81件の一般案件から、要請地域、応募条件（理学療法士としての経験年数、専門領域の経験年数、語学レベル、性別）について集計を行った。

次に一般案件の要請概要のうち、1) 要請理由・背景、2) 予定される活動内容について、に対して同時にKH Coder（株式会社SCREENアドバンストシステムソリューションズ、Ver.3 Base）によるText miningを行った<sup>8)9)</sup>。KH Coderのシステム上、語句は形態素で抽出されるため、複数の形態素から構成される語句は強制抽出する語句として定義した。強制抽出語句としては、「理学療法」、「作業療法」、「言語聴覚療法」、「JICA海外協力隊」を指定した。また、使用しない語句として「要請」、「派遣」を指定した。さらに、同一の事柄を指す異なる表現については、それぞれコード化（例：リハ、リハビリ＝リハビリテーション）した。

計量分析は言及頻度分析、共起ネットワーク分析の2つを実施した。また、共起ネットワーク分析では共起関係をJaccard係数によって規定した。Jaccard係数は語句間の関連性の強さを示し、共起性が強いほど1に近い値となる。本研究においては、強い共起性を持つとされるJaccard係数0.2以上とし、その他の条件として、抽出語の最小係数を15回、集計単位は文とした。また、共起ネットワークにより抽出されたサブグラフに関しては、コンコードダンスを参照しながら文脈の意図を探りネーミングを行った。また、本研究では、分析結果の信頼性を高めるため質的研究に精通した研究

者、筆者を含むJICA海外協力隊経験者間で意見が一致するまで検討を重ねた。

## 結果

### 1. 要請国の属性

要請国は31カ国となっており、地域別要請数は、アジア地域28件(34.5%)、中南米地域20件(24.6%)、アフリカ地域13件(19.7%)、中央アジア・コーカサス地域10件(12.3%)、大洋州地域9件(11.1%)、中近東地域1件(1.2%)であった(表1)。

### 2. 応募条件

応募条件として、理学療法士としての経験年数は、2年以上が13件、3年以上が42件、5年以上が24件、10年以上が2件であった。経験年数と合わせて応募者に大学卒業以上の学歴を求めるものが28件、その他にも各種専門領域の経験を求めるものが16件、指導歴を求めるものが9件、性別の指定が8件であった。

また、語学能力に関しては、選考基準として英語能力が求められるものが65件、英語又はスペイン語能力が求められるものが11件、英語又はモンゴル語能力が求められるものが3件、英語又はフランス語能力が求められるものが1件、選考言語の指定なしが16件であった。語学能力に関して英語能力が選考基準に適用されない案件は存在しなかった。JICAの設定する語学能力としてはレベルA～Dが設定されており<sup>10)</sup>、英語を基準にレベルD(英検準2級・3級、TOEFL®410点、TOEIC®330点)が51件、レベルC(英検2級・3級、TOEFL®470点、TOEIC®500点、IELTS 4.0)が26

件、レベルB(TOEFL®500点、TOEIC®640点、IELTS 5.0)が2件、不明が2件であった。なお、語学能力に関しては、日本で受験者数の多い試験のスコアを記載した。

### 3. 抽出語句

本研究のText miningの対象である要請概要(要請理由・背景、予定される活動内容)に対し、語の取捨選択を設定し前処理を行ったところ、総抽出語数20,212語句、異なり語数1,599語句が抽出された。総抽出語の中で出現回数が多い上位50語を頻出語句として示す(表2)。

### 4. 共起ネットワーク分析

それぞれの語が各ネットワークの中でどれだけ中心的な役割を担っているのかを明らかにするために、要請概要(要請理由・背景、予定される活動内容)に対し共起ネットワーク(媒介中心性)を分析した(図1)。ネットワークの中心となる語として、「資格」、「経験」、「少ない」が抽出された。なお、図の色が濃いほど媒介中心性が高いことを示している。また、各語との関連性を示すJaccard係数を算出した結果、「資格」は、「国」(0.28)、「少ない」(0.23)、「職種」、「学生」(0.21)の共起関係を示した。「経験」に関しては、「少ない」(0.25)、「人材」(0.24)、「知識」(0.21)の共起関係を示した。「少ない」に関しては、「経験」(0.25)、「人材」、「資格」(0.23)、「国」(0.21)を示した。

次に、要請概要(要請理由・背景、予定される活動内容)に対しテキストの傾向を探るために共

表1. 要請国の一覧

配属地域	要請数	派遣国
アジア地域	28	ベトナム(12)、モンゴル(6)、東ティモール(3)、ブータン(3)、マレーシア(2)、バングラディシュ(2)
中南米地域	20	ホンジュラス(3)、パラグアイ(3)、チリ(3)、グアテマラ(2)、ボリビア(2)、メキシコ(2)、エクアドル(2)、ペルー(1)、エスサルバドル(1)、コロンビア(1)
アフリカ地域	13	マラウイ(9)、タンザニア(1)、セネガル(1)、ベナン(1)、モザンビーク(1)
中央アジア・コーカサス地域	10	キルギス(5)、ウズベキスタン(4)、ジョージア(1)
大洋州地域	9	パプアニューギニア(3)、パラオ(2)、サモア(1)、ソロモン(1)、マーシャル(1)、ミクロネシア(1)
中近東地域	1	ヨルダン(1)

表 2. 頻出語句上位 50 語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
理学療法	329	助言	60	作業療法	35
リハビリテーション	210	病院	53	医療	34
患者	207	療法	51	家族	34
行う	185	サービス	50	資格	34
同僚	142	スタッフ	48	専門	33
技術	116	協力	48	至る	31
実施	116	運動	47	センター	30
活動	113	求める	47	研修	30
配属	110	改善	46	開催	29
障害	109	必要	45	少ない	29
知識	104	提供	44	共有	28
隊員	101	医師	41	生活	28
支援	95	経験	41	日本	28
向上	91	提案	39	不足	28
指導	86	評価	39	プログラム	27
疾患	67	勉強	39	人材	27
治療	64	地域	36		

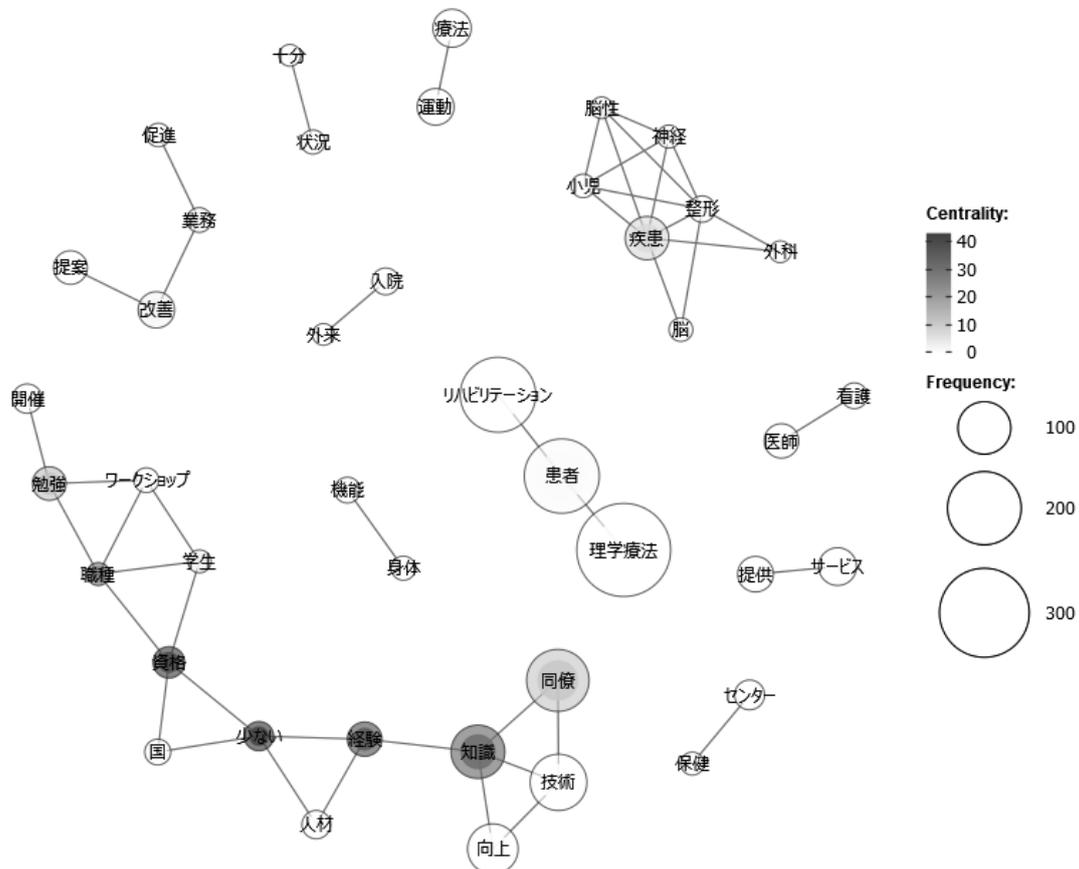
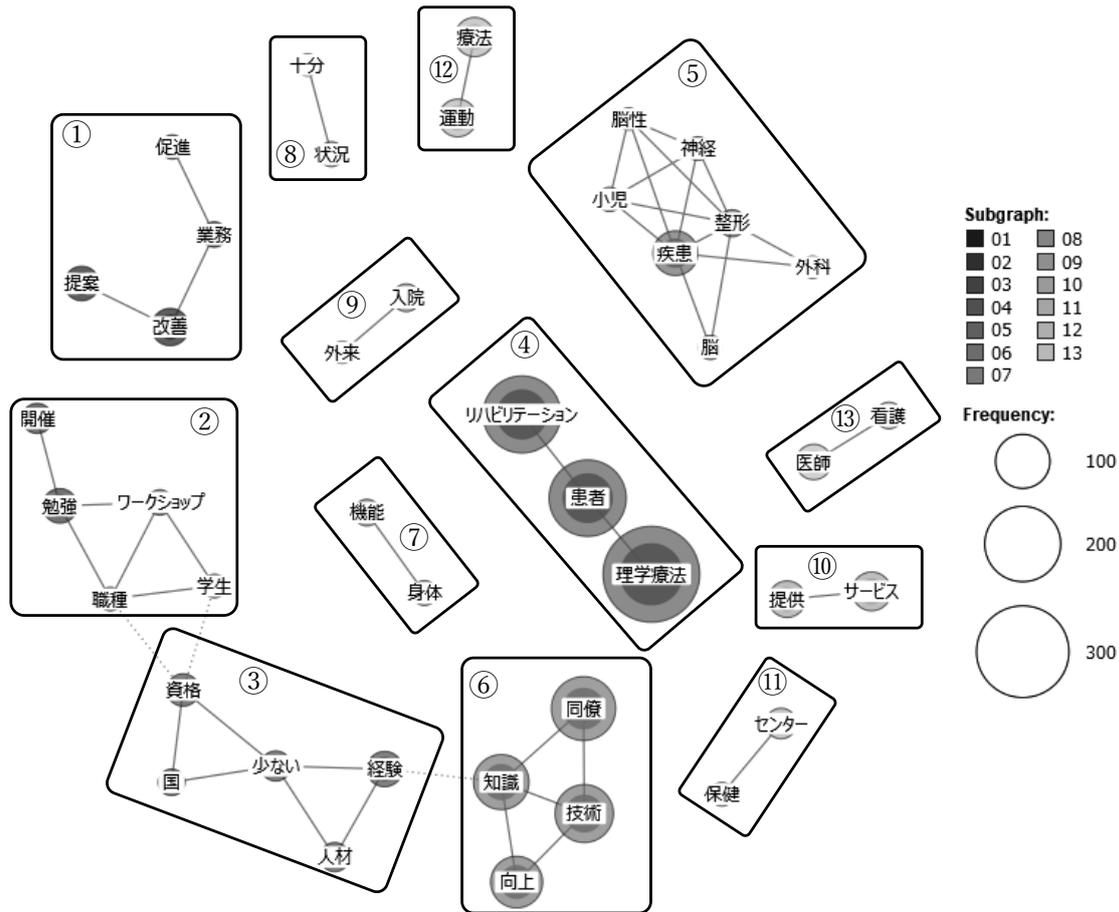


図 1. 共起ネットワーク (媒介中心性)



- グループ 1: 改善, 提案, 促進, 業務
- グループ 2: 勉強, 開催, ワークショップ, 職種, 学生
- グループ 3: 少ない, 資格, 経験, 人材, 国
- グループ 4: 理学療法, リハビリテーション, 患者
- グループ 5: 疾患, 整形, 外科, 神経, 小児, 脳性, 脳
- グループ 6: 同僚, 知識, 技術, 向上
- グループ 7: 機能, 身体
- グループ 8: 状況, 十分
- グループ 9: 入院, 外来
- グループ 10: サービス, 提供
- グループ 11: センター, 保健
- グループ 12: 運動, 療法
- グループ 13: 医師, 看護

図 2. 共起ネットワーク (サブグラフ検出: random walks)

起ネットワーク (サブグラフ検出: random walks) 分析を実施した。その結果、13のグループが抽出された (図 2)。各グループを形成する語句については、コンコダンスを参照し内容を確認した上で、それぞれのグループにネーミングを行った。グループ 1 は、要請施設における既存の業務を見直し必要に応じて業務内容を改善し活動を促進すること、さらに新たな取り組み、治療法、患者指導の提案といった記述から構成されており、【業務の効率化と再検】とネーミングした。グループ 2 は、同僚を含むリハビリテーション関連職種と協力し、学生や専門職に対し勉強会、ワークショップを開催するといった記述から構成されており、【研修会の開催】とネーミングした。グループ 3

は、リハビリテーション専門職の有資格者数が限定されていること、また、有資格者が存在していても臨床経験が短いといった記述から構成されており、【リハビリテーション専門職の量と質の不足】とネーミングした。グループ 4 は、理学療法を含むリハビリテーションがどのような状況で提供されているか、また、その対象者を示す記述から構成されており、【対象者への理学療法】とネーミングした。グループ 5 は、要請施設において支援を必要とする被支援者の状況を示す記述から構成されており、【対象となる疾患】とネーミングした。グループ 6 は、要請施設の同僚に対する知識、技術の向上を目的とした取り組みに関する記述から構成されており、【同僚への能力向上支援】

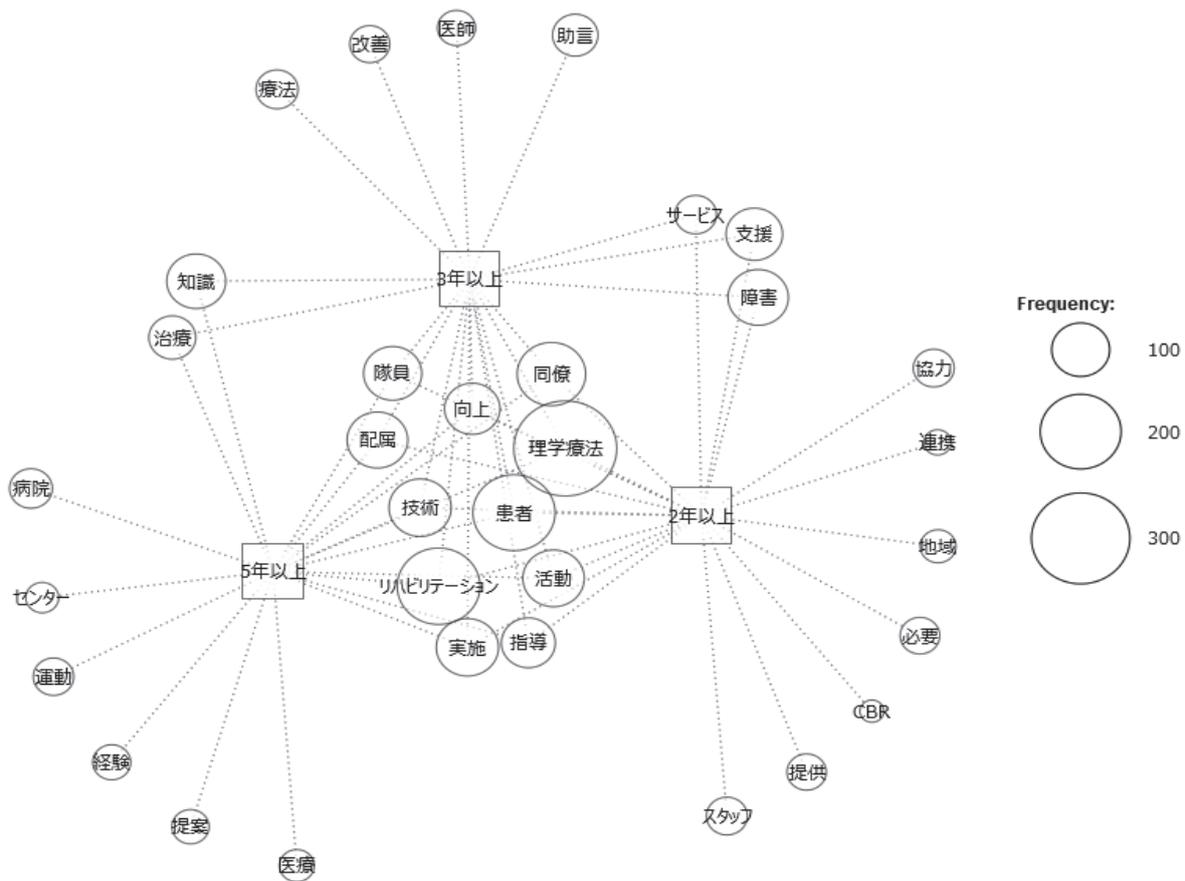


図3. 実務経験に対応する共起ネットワーク

とネーミングした。グループ7は、要請先の介入対象としての被支援者の身体機能特性について記述されており、【身体機能に対する理学療法介入】とネーミングした。グループ8は、リハビリテーションを提供している施設状況についての記述から構成されており、【リハビリテーション的資源の不足】とネーミングした。グループ9は、要請施設における被支援者の入院と外来の状況を示す記述から構成されており、【被支援者の診療形態】とネーミングした。グループ10は、要請先がリハビリテーションをどのように提供しているのかを示す記述から構成されており、【リハビリテーションの提供状況】とネーミングした。グループ11は、各要請施設の社会的な立ち位置について示す記述から構成されており、【要請施設の傾向】とネーミングした。グループ12は、運動療法に関する記述であり同僚への指導と対象者への直接的な治療技術の提供といった記述から構成されており、【運動療法の指導と提供】とネーミングした。グループ13は、要請施設の人員構成と関係性を示す記述から構成されており、【他職種連携】とネーミングした。

さらに、応募条件で規定されている理学療法士としての実務経験年数に対応する共起ネットワークを作成した(図3)。ここでは各実務経験年数に関連性の高い語句を抽出し、それぞれの実務経験に対応する要請内容の傾向を明らかにした。なお、経験年数10年以上が必要となる要請が存在したが、今回は2件と少数であったため5年以上の要請として分類した。2年以上の実務経験が求められる要請に関しては、「協力」、「必要」、「地域」、「スタッフ」、「提供」、「CBR」、「連携」が独自の関連性を持つ語句として抽出された。3年以上の実務経験が求められる要請に関しては、「助言」、「療法」、「改善」、「医師」が独自の関連性を持つ語句として挙げられた。5年以上の実務経験を求められる要請に関しては、「病院」、「運動」、「経験」、「提案」、「医療」、「センター」が独自の関連性を持つ語句として抽出された。また、実務経験2年以上と3年以上の要請で共通して関連性が高い語句として「障害」、「支援」、「サービス」が抽出され、実務経験3年以上と5年以上の要請で共通して関連性が高い語句として「知識」、「治療」が抽出された。

## 考察

本研究では、COVID-19の世界的大流行によるJICA海外協力隊の全隊員が一時撤退した2020年を区切りとし、2021年度以降のボランティア要請内容の動向を調査し分析を行った。JICAによるボランティア派遣事業の累計派遣者数は2023年3月時点で46,640名であり、その中でもアフリカ地域28.6%、アジア地域28.6%、北中南米地域26.4%とその大半を占めている<sup>3)</sup>。2021年度以降の理学療法士の要請に関しても、アジア地域、中南米地域、アフリカ地域を対象とした案件が中心となっており、現在のJICA海外協力隊全体の傾向と過去の傾向は一致していた。また、2023年時点の1万人当たりの理学療法士数の平均はアフリカ地域0.3人、アジア太平洋地域1.6人、北中米地域6.4人となっており、ヨーロッパ地域13.5人、南アメリカ地域7.9人と比較しても人的資源の少ない国へと派遣されていることが理解できる<sup>6)</sup>。一方で、31カ国という多様な国と地域からの要請があるものの、アジア地域、中南米地域と比較し、アフリカ地域、中央アジア・コーカサス地域では要請国が特定の国へ集中する傾向が認められた。

JICA海外協力隊に参加する理学療法士の選別には、経験年数、学位の有無、専門領域、語学能力、性別による規定が存在した。経験年数に関しては、短いもので2年以上、長いもので10年以上の臨床経験が求められており、経験に応じた知識や技術を期待されていると考えられる。また、大学を卒業し学位を有していることを条件にしている要請案件も約35%存在していた。田中<sup>11)</sup>は、国会答弁の中で2024年時点で世界理学療法連盟に加入する128カ国のうち、教育課程が明らかでない126カ国の約86.5%は学士以上の教育課程が必須となっていると述べている。その上で、特にアジア・アフリカ地域は顕著な学歴社会となっており日本の教育や技術支援等を行う際に、日本のリハビリテーション専門職の教育歴が足かせとなっていると指摘している。実際に地域によって差異はあるものの、それまでリハビリテーションを提供していた土着の専門職と新たに学位を有した専門職では、待遇や職種で差別化されていることが少なくない。日本の理学療法士ボランティアに関しても学位を有さない場合は、現地のリハビリテーション専門職と同等の扱いが得られない可能性がある。語学レベルに関しては、レベルD（英検準2級・3級、TOEFL®410点、TOEIC®330点）といういわゆる日常生活を最低限営むレベルの語学能力のみを求める要請案件が過半数となっており、

語学能力の敷居が決して高くないことが示されている。一方で、これは各要請地域、要請施設で期待される活動の主要なものが、被支援者への理学療法、リハビリテーションの提供であるということ逆説的に示しており、志願者の抱く国際協力の理想像との乖離には注意が必要である。

ここからは共起ネットワーク（媒介中心性）から読み取れることについて言及したい。まず、ネットワークの中心には「資格」、「経験」、「少ない」といった語句が抽出された。ここからは、要請国が依然としてリハビリテーションの人的資源の不足を問題視していることが理解される。頻出語句として抽出されている語句を勘案しても、マンパワーとしての役割を要請国が期待しているということが理解される。また、共起関係の強い「学生」という語句からは、指導の対象が患者、リハビリテーション専門職に留まらず学生にも及ぶこと、同様に支援対象の国々でも理学療法士の養成が始まっていることを示唆している。このことは、教育や指導に携わる上で、指導的役割を担う日本の理学療法士の学位が重視されるという背景に繋がっていると考えられる。

また、共起ネットワークのサブグラフ検出（random walks）から読み取れることとして、日本の理学療法士に求められるのは、単なる対象者への理学療法の提供や同僚への能力向上支援だけではないことを示している。特にグループ1【業務の効率化と再検】で示されたように、理学療法士かつ日本人として俯瞰的に要請施設のリハビリテーション活動を捉え、その業務内容の改善や新たな提案が求められていることがわかる。そのような意味では、理学療法士としての知識や技術だけが必要なわけではなく、先進国に身を置く医療従事者としての深い洞察力と行動力が期待されている。また、渡邊は<sup>12)</sup>理学療法士ボランティアが要請国で知識や技術を伝える際に適正技術の視点を持つ必要性を説いている。適正技術とは、中間技術ともいい支援国の技術をそのまま伝達するのではなく、要請国の文化社会的側面、経済的側面に則した現地に根付く技術のことを指す。要請される理学療法士は、日本と要請国の慣習、経済状況、資源等の相違を十分理解した上で活動を推進する必要がある。さらに、グループ4【対象となる疾患】、グループ7【身体機能に対する理学療法介入】、グループ12【運動療法の指導と提供】からは、開発途上国における理学療法士の立ち位置や支援内容が示されている。グループ3【リハビリテーション専門職の量と質】やグループ8【リ

ハビリテーション的資源の不足】が示すようにリハビリテーション資源に乏しい要請国においては、依然としていわゆる心身機能・身体構造に関する課題やそれに対する評価、治療技術が求められており障害の医学モデルに準じた医療が提供され、そのことが期待されていることがわかる。同様に共起ネットワークのサブグラフ検出 (random walks) を俯瞰すると国際生活機能分類における心身機能・身体構造以外の項目、障害の社会モデルやリハビリテーションの地域への広がりを彷彿とさせる語句が抽出されていなかった。このことは、ある種の既定観念である「施設における障害者への運動療法」を提供することが要請国における理学療法士の役割であることを表しており、同時に配属先のリハビリテーション専門職の技術力を養うためのグループ2【研修会の開催】、グループ6【同僚への能力向上支援】が日本の理学療法士に期待されていることを示している。

次に、実務経験に対応する共起ネットワークからは、求められる活動の別の側面が描かれている。特徴的なものとして実務経験が2年以上と応募条件の難易度が低い要請案件では、「地域」、「CBR」、「協力」、「連携」等の語句が抽出されている。ここからは、リハビリテーション資源に乏しい要請国、要請地域の状況を理解することができる。一方で、リハビリテーション資源に乏しいが故に、CBR (Community Based Rehabilitation : 地域に根ざしたリハビリテーション) という医療や福祉のみならず地域社会全体で取り組む地域開発の手法が求められている。国際協力分野においては「CBR」は広く認知されているが、一般的にCommunity Based Rehabilitationという日本のリハビリテーション専門職からは、地域におけるリハビリテーション活動、つまり、訪問リハビリテーション等の活動と医療提供活動と結び付けられやすい。しかし、CBRは住民参加を用いながら保健・医療の課題を解決する方法論であるプライマリ・ヘルスケアの文脈から生まれたものであり、地域の障害者がリハビリテーションを含む様々な支援を受けられるようにする社会・地域作りを指し、障害者の機会均等やソーシャル・インクルージョンのための総合的な地域開発を求めている<sup>13)</sup>。そのように捉えるとリハビリテーション資源に乏しい要請国、要請地域においても理学療法士としてだけでなく、医療従事者として地域のコミュニティと連携を取り活動をマネジメントできる能力が求められている。同時に、CBRという活動の持つ高い抽象性のため、各隊員の活動と

その成果を不明瞭なものとしている可能性は否めない。CBRを要請内容に含む案件に関しては、実務経験の短い理学療法士も対象に含まれるが現地社会からの理解を含めリハビリテーション資源に乏しい地域での不確実性の高い多様な活動が求められているため、かえって活動の難易度が高くなる可能性がある。

実務経験3年以上、5年以上の要請案件から抽出された語句からは、既にリハビリテーション専門職と拠点となる施設が存在しているということが理解される。さらに、「提案」、「助言」、「知識」、「治療」といった語句からは、診療部門としての業務改善、他部門との連携、専門職としての能力強化を支援することが求められていることがわかる。また、5年以上の要請案件と関連性の高い「病院」、「センター」という語句からは、施設規模が大きく、リハビリテーション専門職がある程度充足している環境での活動が想定されているのがわかる。これらのことから、実務経験に応じて要請国、要請地域のニーズがリハビリテーションの量から質に変化していることがわかる。

最後にJICA海外協力隊へ参加する理学療法士の役割について改めて言及する。今回の研究では、全ての要請において理学療法士としての診療業務、いわゆるマンパワーが求められていることがわかった。もちろん、マンパワーとしての役割に良し悪しの価値は付帯されない。しかし、JICA海外協力隊を志望する理学療法士の多くは、大きな志を持って臨床業務以外の幅広い活動を期待していると推察する。この実際の活動と期待との差異はJICA海外協力隊への参加を検討する上で留意しておかなければならない。一方で、要請国・要請施設においてまず質の高い理学療法を提供し、同僚や被支援者、地域からの理解と信頼を獲得することの積み重ねが活動領域の拡大と発展に繋がる可能性を秘めているのもまた事実であろう。また、本研究を進めていく過程で、スポーツ選手の指導を中心とするより高度な専門性を必要とする要請案件も複数存在した。本研究は横断的なものであるため推測の域を出ないが、アジア地域を中心としたリハビリテーション専門職の養成機関の増加に伴い、今後はさらなる専門性や教育歴を求める案件が増加してくることが予測される。JICA海外協力隊の派遣国は一概に当事者が決定できるものではない。しかし、自身の想定と要請施設のニーズの不一致を防ぎ双方が納得のいく活動を実施していくためにも、JICA海外協力隊の理学療法士が求められている役割を理解しておくことは必

要不可欠である。

## 結論

JICA 海外協力隊の支援国はアジア・中南米地域が中心であり、依然として量的な支援が求められている。また、JICA 海外協力隊の理学療法士は要請の条件として語学能力ではなく学位や経験年数を重視される傾向があり、専門職としての知識・技術だけではなく、医療先進国の一員として俯瞰的に支援国の課題を洞察し改善することが求められている。要請案件の傾向としては、募集条件が高くない案件は、若年の理学療法士の採用が見込まれる一方で、CBR といった抽象性の高い課題に対し幅広い知識や経験が求められる傾向がある。募集条件が高い案件に関しては、リハビリテーションの中核施設にて他職種連携やリハビリテーションの質の向上、学生指導が求められる傾向がある。

## 【文献】

- 1) 公益社団法人日本理学療法士協会ホームページ 統計情報. <https://www.japanpt.or.jp/activity/data/> (2024年5月1日引用)
- 2) World Health Organization, The World Bank: World Report on Disability 2011. World Health Organization & The World Bank. Geneva. 2012, pp. 19-44.
- 3) JICA-国際協力機構ホームページ 事業実績/派遣実績. <https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/results/index.html> (2024年5月1日引用)
- 4) JICA-国際協力機構ホームページ 第3期中期計画におけるJICAボランティア事業評価. [https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/report/pdf/evaluation\\_01.pdf](https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/report/pdf/evaluation_01.pdf) (2024年5月7日引用)
- 5) 知脇希: 国際協力分野での理学療法士・作業療法士活動の効果研究—青年海外協力隊経験者への調査—. 理学療法学. 2016; 43(3): 160-161.
- 6) World Physiotherapy ホームページ Annual membership census 2023 Global report. <https://world.physio/sites/default/files/2024-01/AMC2023-Global.pdf> (2024年5月23日引用)
- 7) JICA-国際協力機構ホームページ 青年海外協力隊/海外協力隊/日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊 職種別一覧. <https://www.jocv-info.jica.go.jp/jv/?m=BList> (2024年5月7日引用)
- 8) 牛澤賢治: やってみようテキストマイニング 自由回答アンケートの分析に挑戦!, 朝倉書籍, 東京, 2021, pp. 38-73.
- 9) 樋口耕一: 計量テキスト分析およびKH Coderの利用状況と展望. 社会学評論. 2017; 68(3): 334-350.
- 10) JICA-国際協力機構ホームページ 語学力審査について. <https://www.jica.go.jp/volunteer/application/long/language/index.html> (2024年5月7日引用)
- 11) 衆議院インターネット審議中継 2024年4月24日予算委員会. <https://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/detail.php?sid=7901> (2024年5月7日引用)
- 12) 渡邊雅行: JICA ボランティアにおける理学療法士の活動. 理学療法学. 2015; 42(8): 657-658.
- 13) 渡邊雅行: PT・OT ビジュアルテキスト 国際リハビリテーション学(第1版). 河野真(編), 羊土社, 東京, 2016, pp. 117-122.